

水産研だより

- 1 「新・子持ちアユ」の開発状況
- 2 「特定外来生物」の放流や運搬等は禁止されています
- 3 ニジマスの採卵が始まりました
- 4 「研究発表会」を開催しました



天然記念物イタセンパラの仔魚
※ この状態で二枚貝のエラの中で約半年間過ごします

1 「新・子持ちアユ」の開発状況

市場では、成熟期の卵を持っている雌は「子持ちアユ」と呼ばれ、シーズンになると高値で取引されます。しかし、一般的な養殖アユでは、成熟期になると雌雄をより分ける、つまり「子持ちアユ」を選別する必要がありますが、労力がかかります。そのため、研究所では、全雌アユの生産を実用化し、この選別にかかる労力を省くことができるようになりました。しかし、現在の種苗は、海産系人工種苗を基に開発されたため、一部生産者からは琵琶湖産のようにたくさんの卵を持ったアユを望む声が寄せられていました。

そこで、平成25年に当研究所で開発した全雌アユ種苗に、琵琶湖産種苗を交配させた新種苗（第1代目）を作出し、今年度、耐病性を強化するための選別を行って第2代目を作出しました。現在、この種苗は、人工海水中で飼育していますが、3月下旬より飼育水を淡水へ切り替える予定です。

(資源増殖部 荻谷)



「子持ちアユ」



現在、人工海水中で飼育中の種苗(約0.1g)です

2 「特定外来生物」の放流や運搬等は禁止されています

「特定外来生物」は、外来生物(海外起源の外来種)のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から指定されています。魚類では、サンフィッシュ科オオクチバス・コクチバス・ブルーギルなどがこの「特定外来生物」に指定されており、放流・運搬・保管・飼育等が禁止されています。また、サンフィッシュ科の例では、オオクチバス・コクチバス・ブルーギル以外のすべて魚種が「未判定外来生物」に指定されており、それらを輸入する場合は、主務大臣への事前の届け出が必要です。サンフィッシュ科の魚種以外にも「特定外来生物」や「未判定外来生物」に指定されているものがあります。詳しくは、環境省「外来生物法」ウェブサイトや当研究所の広報誌第11号をご覧ください。



岐阜県内で確認されたコクチバスです

(生態環境部 米倉)

- ・環境省「外来生物法」 <http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>
- ・当研究所の広報誌11号 <http://www.fish.rd.pref.gifu.lg.jp/kohoshi/pdf/11-0903.pdf>

3 ニジマスの採卵が始まりました

下呂支所でニジマスの採卵が始まりました。同じ系統の同じ年齢のニジマスで、かつ同じ池で飼育してきたものであっても、成熟の時期には個体差（最大で1ヶ月半ほど）が生じます。そのため、下呂支所では、親魚を池から取り上げて成熟度合いを毎週確認し、採卵可能な個体だけを選び出して採卵と人工受精を行うようにしています。採卵のタイミングが早くても遅くてもうまく受精しないので、天候の良し悪しよりも親魚の状況を優先しなければなりません。

飛騨地方ではまだまだ寒く、水温が5度程度にまで下がることがありますが、雪の日でも職員が総出で作業を実施しています。

(下呂支所 原)



ひき網でニジマスを追込みます



ニジマスを池から取り上げているところです



一尾づつ卵を絞ります

4 「研究発表会」を開催しました

2月24日に中濃総合庁舎(美濃市)で平成26年度の「研究発表会」を開催し、174名の方々にご参加いただきました。発表会では、本所資源増殖部、生態環境部および下呂支所において現在実施している研究概要の説明の他、研究成果として「長良川におけるアユの遡上時期と産卵時期の関係」、「大型マス類の鮮度に関する研究」、「培養液によるナマズ精巣内精子の運動性の違い」、「魚類が往来できる河川-農業排水路-水田の生態系ネットワークの再生」の4課題について発表しました。

発表後の質疑応答では、参加者の方からご質問やご意見を多数いただき、大変有意義な発表会となりました。誠にありがとうございました。

(担当:生態環境部 後藤、下呂支所 原)



満席状態になった会場です



発表の様子です